◇経済倶楽部講演会第4286回（4月19日）

生産性上昇をどう実現するか？
―マクロとミクロの視点

第一生命経済研究所経済調査部首席エコノミスト　熊野（くまの）英生（ひでお）

＊残業規制に形を変えた働き方改革
＊低生産性を生んでいる3つの要因
＊生産性上昇に対する誤解
＊管理会計でわかった生産性の正体
＊大企業と中小企業の違いは何か
＊中小企業が生産性を上げる方法
＊役に立つピーター・ドラッカーの投資術
＊イノベーションについて考える
＊今後10年、次の生産性上昇の肝は何か
＊労働市場の柔軟性も不可欠

柴生田　それでは開会いたします。（拍手）

毎年おいでいただいておりますので皆様に詳しいご紹介は必要ないと思いますが、本日は熊野さんにおいでいただきました。

かねがね日本経済の低迷の一つの原因であります生産性の問題というのが、いろんな方から明快な答えをいただけないでおります。今日は、その生産性をどう向上させるかというお話を中心にしていただけるということでございます。

それでは熊野先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

残業規制に形を変えた働き方改革

熊野　皆さんこんにちは。毎回お世話になっております第一生命経済研究所の熊野でございます。今日もよろしくお願いします。

いつも私は景気情勢について話すことが多いですが、今般は1月に著書を発行いたしまして、まさに今いろいろな企業で取り組んでいる活動ですけれども、生産性について議論を整理してみたということで、そのお話を差し上げてみたいと思います。

ご挨拶は本編に入る前にもう一つあって、今、実は令和のごく手前で非常におめでたくて、私も令和効果というレポートを三つぐらい出して、今日も朝メディアから問い合わせがあったのですが、この令和を盛り上げるもう一つのアイテムが、改札といいますけれどもお札を切り替えると。そこで1万円札の新しい肖像が渋沢栄一になるということで、渋沢栄一と東洋経済新報